

種子屋久通信

発行：熊毛地域青少年育成推進協議会
住所：西之表市西之表7590番地
(熊毛支庁総務企画課内)
TEL：0997-22-0498
FAX：0997-23-1161

平成30年度「熊毛地域青少年環境づくり懇談会」

12月4日(火)、平成30年度熊毛地域青少年環境づくり懇談会が屋久島環境文化村センターで開催され、業界関係・学校関係・青少年育成関係・行政関係者等14名が出席しました。

屋久島警察署生活安全刑事課三宅氏に「管内の少年非行の概況について」説明いただきました。

続いて、鹿児島県青少年育成県民会議の蔵元事務局長より県民会議の取組、青少年を取り巻く有害環境、最近の状況、今後の育成活動など、県内の青少年育成について話していただき、その後事務局から「青少年保護育成条例に基づく立入調査」の結果を報告しました。出席者からもそれぞれの自主的な取組について発言いただき、情報交換することでお互いの共通理解が図られました。



三宅氏の説明の様子

安心ネットサポーター養成講座

〈スマホ時代の子育て、
何に気をつけますか？〉
○まずは大人がお手本に。家族
みんなでルールをつくってみましょう。
○保護者がしてあげられること。安全設定。
フィルタリングを有効活用しましょう。



1月12日(土)にNPO法人ネットポリス鹿児島主催の「安心ネットサポーター養成講座」が県庁6階大会議室で開催され、教職員、教育関係者、警察関係者、民生委員、児童委員他団体関係者が参加しました。

子どもたちの周りのインターネット機器と基本用語、子どものインターネット利用の有害性と問題点、子どもの遊び場としての危険性と男女別の特徴、フィルタリングの必要性和ペアレンタルコントロール、子どもが利用しているアプリの実践、ネットトラブル対応実践テストと活動の基本的心得等3名の講師により説明がありました。

最後に戸高氏から安心ネットサポーターとして出来ること、して欲しいことは「大人は知ってるんだ」という抑止指導が必要だと話されました。



平成30年度 明るい家庭づくり実践講座



明るい家庭づくりのための親や大人のあり方などについて理解を深めてもらうとともに、毎月第3日曜日の「家庭の日」における親子のふれあいを促進し、次代の鹿児島を担う青少年の育成を図るために開催するものです。今年度、管内では6講座が開催されました。（◆報告書より抜粋）



☆一湊小学校家庭教育学級 特別教育講演会

期 日 平成30年10月26日（金）

講 師 井上 一郎 氏（フリー教育学者）

演 題 「アクティブ・ラーニング時代に応じた読書活動と授業のあり方」

参加者 48人

◆読書はこれからの時代に必要な子どもたちの資質や能力を養うためには欠かせない学びである。学校や家庭で主体的で深い学びを実現するためにも、大人自身が生涯にわたって能動的に学ぶための読書環境づくりに取り組んでほしいと熱く語られました。



☆PTA教育講演会（屋久島町立安房小学校PTA）

期 日 平成30年11月22日（木）

講 師 前田 宏和 氏（ストレッチングインストラクター）

演 題 「こどもを取り巻く環境 ロコモティブシンドロームとスポーツ障害」
～予防法としての姿勢改善体操 ストレッチングとトレーニングの視点～

参加者 67人

◆スポーツ障害やロコモティブシンドローム等専門的な話を聞いたり、姿勢改善体操やダイナミックストレッチング等実際に体を動かしたりして、楽しみながらの講演会でした。



☆南種子町PTA活動研究委嘱公開（花峰小学校PTA）

期 日 平成30年11月24日（土）

講 師 古市 安治 氏（出水市教育委員会 社会教育指導員）

演 題 「子供を育てる親の心意気」

参加者 98人

◆（講演の感想より）素晴らしい絵や書、さらに楽器の演奏で楽しみながら子育てについて学ぶことができました。講演を聴いて心がリセットされました。家に帰り夫と家族でたくさん話をしようと思います。「笑顔工房」を忘れず、子育てに励みたいと思います。



☆西之表市PTA活動研究委嘱公開（榕城小学校PTA）

期 日 平成30年12月8日（土）

講 師 バーバラ 植村 氏（講演会講師、作家、大学講師）

演 題 「前向きに生きるために」

参加者 423人

◆バーバラ植村さんのこれまでの人生経験、子育て経験をもとに、講演いただきました。自分の気持ちも、子どもへ向けた愛情も、言葉に出して、その気持ちをしっかりと伝えることが、とても大切であること。世界中どこで生活するにも「あいさつ」が基本であり、家族間で「お願い」と「お礼」のあいさつをしっかりと習慣づけることがとても大切であること。また子育てをする上で自分自身が明るく元気に幸せであることが一番大切であり、毎朝明るく目標を持って自分は出来る！と言い聞かせることが大切なことなのだと、自分の生活や気持ちの持ち方などを考えさせられる講演となりました。



☆西之表市家庭教育講演会及び子育てセミナー

期 日 平成31年2月2日（土）

講 師 上村 芳郎 氏（鹿児島市玉江小学校 校長）

演 題 『「SODATERU」って、おもしろい！』

参加者 212人

◆寄り添うとは何か。「聴ける」「話せる」関係を築くことが大切であり、あいさつに一言付け加えることや、言葉に包装紙をつけて声かけをするといった心がけが、寄り添う一歩なのだと感じました。眼と言葉と肌で子どもに触れることや、褒められるところを探してあげることなど、寄り添うための親としてのテクニックを身に付けることが大切であると同時に、自分自身に心のゆとりを持つことが大切なのだと改めて考えさせられる講演となりました。



☆中種子町立中種子中学校 立志式

期 日 平成31年2月9日（土）

講 師 岡本 善久 氏

（鹿児島読売テレビ編成局編成部副部長、元アナウンサー）

演 題 「凡人が夢を叶えられた理由」

参加者 281人

◆講師がアナウンサーを目指すようになったきっかけやアナウンサーになるためにどのような努力を積み重ねてきたのか、人は夢や目標があると困難な状況になっても頑張れることなど、講師の経験からの講演を真剣な眼差しで興味深く聴いていた。『「成功」は約束されていないが「成長」は約束されている』、『「つらい時」は「成長」している時』など、強く印象に残る言葉を伝えてくださった。アナウンサーでもある奥様のムービー出演もあり、生徒も大変喜んでいました。生徒の質問もたくさんあり、サッカーの実況中継のリクエストにも応えてくださった。生徒が自らの人生の目標を見出し、志を立て目標達成のために努力し続けていく意欲を抱くことができる立志式にふさわしい講演であった。

平成30年度 かごしま地域塾グレードアップセミナー

2月3日（日）、鹿児島県青少年会館において「平成30年度鹿児島地域塾グレードアップセミナー」が開催され、地域塾指導者・行政関係者約40名が参加しました。

開会あいさつ（青少年男女共同参画課中川課長）の後、今年度の「優れた地域塾」と認証された7団体の認証式が行われました。続いて、かごしま地域塾推進事業について VTR 視聴し、地域塾活動紹介として「加世田・山の学校（南さつま市）」「いなほの会（姶良市）」の事例発表がありました。その後「地域塾活動を継続・発展させるための具体的な取組について」と題して、グループ別に意見交換、報告を行いました。



認証式の様子



地域塾活動紹介の様子

各グループの共通点は、地域塾の認知度が低い、学校閉校により継続困難、指導者不足、資金不足、指導者研修の場が必要等々、日頃感じている課題や取組について語り合うことで、青少年育成に携わる仲間として、今後の地域塾活動の質的向上、相互の連携強化が図られました。



子育ての悩みがあるときは、最寄りの市町村の子育て相談窓口
または児童相談所全国共通ダイヤル「189」にご連絡ください。



育成活動の紹介



【南種子町】

☆「餅つき・しめ縄作り」インギー花峰塾

12月15日(土)、インギー花峰塾では12月の活動として、老成会会員の指導のもと、下中地区公民館で「餅つき・しめ縄作り」を行いました。子ども14名、老成会会員13名、他関係者4名が参加しました。花峰小学校は宇宙留学生在が地元の子どもより多く、今回の活動も宇宙留学の子どもたちが多く参加していました。地元の子どもたちもいい刺激を受けるような気がします。宇宙留学は基本1年間と決まっているため、このような体験活動を通し、その地域の方との絆もでき、やがて社会に出て、生きていく中での学びに繋がったと思います。



お餅を丸めています



育成会長お手本 ヨイショー



しめ縄うまく出来るかな！

☆「第26回宇宙へはばたけ凧あげ大会」南種子町公民館青少年育成部連絡協議会

1月19日(土)、南種子町公民館青少年育成部連絡協議会主催の、宇宙へはばたけ凧あげ大会が南種子宇宙センター竹崎グラウンドで開催され、幼児から一般までの約250名が参加しました。「宇宙遊泳賞」「飛翔賞」「デザイン賞」「チームワーク賞」「種子島宇宙センター所長賞」に加え、今年は「三菱重工MILSET長賞」の6つの賞をかけて競い、入賞者には賞状と副賞が贈られました。この大会の趣旨どおり、子どもたちの夢と希望を育み、凧づくり(創作活動)を通して、子ども会会員の交流を図るとともに、地域・家庭・学校の連携が深められた活動だったと思います。表彰式の途中で会場内全員で燃焼試験も体感でき、平成最後にふさわしい凧あげ大会になりました。



大空高く願いを込めて



連凧も順調に上がっています



表彰式「種子島宇宙センター所長賞」

【西之表市】

☆「親子料理教室：種子島の魚で お寿司を作ろう！」ふるさとまなび〜隊

1月26日（土）、熊毛支庁林務水産課の「熊毛のさかな魅力発見・発信委員会」と共同でふるさとまなび〜隊の第8回の活動として「親子料理教室」が保健センターすこやかで開催されました。8組の家族が参加しました。

講師に直寿司店長の瀬下氏を迎え、魚のさばき方やにぎり寿司の作り方などを教わりました。トビウオのさばき方も教わり三枚おろしに挑戦。普段魚をさばいて調理することが殆どないという保護者もあり、これを機に食卓に魚料理が増えることを期待したいです。



【中種子町】

☆「創作活動：手作りキャンドル作り」 中種子チャレンジキッズ

中種子チャレンジキッズの第5回目の活動として「創作活動：手作りキャンドル作り」が、12月22日（土）、中種子中央公民館で行われました。

一つはアロマキャンドルを使用した「アロマワックスバー（サシェ）」、二つ目はドライフラワーを使用した「ボタニカルキャンドル」を作成しました。

まず、二種類のキャンドルの完成をイメージして絵に描きました。初めて作る子どもがほとんどで、最初は戸惑っていましたが、それぞれ思い思いの立派な作品をイメージしていました。次に、使う花材（ドライフラワー）を選び、

溶かしたキャンドルが冷めないうちに配置していく。アロマワックスバーでは、アロマキャンドルを溶かすため、教室内ではよい香りが漂っていました。完成した作品を見ると、器から大きく飛び出している作品や、細かい花のみをつかって花を散らばめている作品など、想像力豊かな作品ばかりでした。また、色使いも華やかなものが多く、楽しそうに装飾していました。

クリスマスが近かったこともあり、友人や両親へのプレゼントにする子どももいました。

春の「郷土に学び・育む青少年運動」

平成31年3月11日（月）～4月10日（水）



鹿児島県青少年海外ふれあい事業 ～香港コース～

この事業は、本県との関わりの深い香港に鹿児島の青少年を派遣し、交流活動を通じて国際的感覚やふるさとを愛する心の醸成を図り、次代を担う青少年リーダーを育成し、併せて、香港との友好親善に寄与することを目的に、8月28日（火）～9月2日（日）の日程で実施され、熊毛地区からは、林田千聖さん（種子島高校2年）が、県内の青少年14名とともに参加しました。

林田さんの感想文をご紹介します 新しいスタート

「国境を越えて異国の人と関わってみたい」「自分の英語力がどれほど通用するのか試したい」「異国の文化を知りたい」たくさんの“したい”を膨らませて今回、この研修に臨みました。将来、日本文学を学びたい私にとって、異国の文化や歴史、人々の思想を知ることとはとても大切なことだと思います。

私の香港のイメージを大きく覆すものがありました。それは環境対策です。高層ビルが建ち並び、人が溢れ、自然はほとんどない、というのが香港のイメージでした。しかし実際に行ってみて分かったのは、どの施設でも環境対策が徹底していました。

各建物が環境に対して影響を与えるか一つ一つ確認したり、電気代、エアコン費を抑えるために窓の取り付け方を風向きや日差しの向きを考えて設置したりと、たくさんの工夫が凝らされていました。さらに、水に対しても海水を飲用水に変えるなどの配慮がされており、新しい発想を知ることが出来ました。

私が最も興味を持ったのは香港大学でした。広大なキャンパスとオシャレな外装、特に印象に残っているのは大学内にあった天安門事件がモデルのオブジェです。

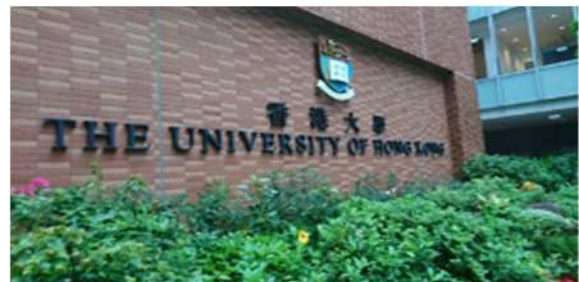


生徒が政府に抗議したことがきっかけとなり、その対抗運動のスケールが次第に大きくなったことで政府が生徒を戦車でひき殺したという悲しい出来事がモデルになったものです。

オブジェはたくさんの学生たちで出来ていて、一人一人別々の方向を向いており、姿は様々ですが、その顔はすべて苦しそうに歪んでおり、今にも声が聞こえてきそうでした。

現代では国と国での争いに目を向けられがちですが、もっと国内で起こっている動きに目を向けることこそ平和に繋がるのではないかと思います。

学部の話も興味深く、大学の文学部についての話を聞きました。学べる分野が沢山あり、中国語、英語、スペイン語など色々な種類の言語を学ぶことができます。



研修を終え、香港に対する印象が180度変わった5日間でした。日本に比べておもてなしの心がないと聞いていましたが全然そんなことはありませんでした。「なにがしたい?」「大丈夫?」と常に私たちのことを気にかけてくれました。

英語の聞き取ることが苦手な私にはゆっくり、丁寧に話しかけてくれました。それと同時に香港の人たちの英語スキルの高さ、日本の英語学習の遅れを痛感しました。

日本とは全く異なる生活スタイルに食文化、行政の仕組みや環境対策、それらを知ることでの視野をさらに広げられました。

私が担当したアトラクション班では、民謡や伝統の踊り、日本の文化を伝えることができたと思います。私たちが行った一つ一つの行動が、香港と日本、香港と鹿児島をつなぐ架け橋になることを願います。